

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 12月 2日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100249		
法人名	社会福祉法人三篠会		
事業所名	グループホーム白木の郷		
所在地	広島市安佐北区白木町小越10230番地 (電話) 082-828-0123		
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100249-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・地域の方と一緒に季節ごとの行事を行ったり、畑仕事を一緒に行い、交流を深めている。 ・運営推進会議後に、地域の方や家族の方を対象に、介護保険や認知症についての講話や災害時の避難訓練を一緒に行い、当施設のことを知ってもらうことや、食事会や行事を通じて、地域の方と家族の方の交流を深めるような取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成22年7月開設のグループホームである。近隣は風光明媚な田園風景が広がり、幹線道路やJRの駅からも近く交通至便であるため、家族も来訪しやすい。同じ敷地内に母体法人の老人保健施設、障害者福祉施設があり、防災や研修体制などを共有している。事業所は木造の平屋建てであり、天井は高く広々とした空間であり、室内は臭いもなく快適である。 事業所として、地域行事に積極的に参加しているほか、日常的に地域住民による事業所運営に対する協力がある。近隣の山からもみの木を切り出し、利用者とともに飾りつけを行ったり、運営推進会議への積極的な参加や、学習会や餅つきなどのイベントの共催もある。利用者も比較的に近隣の方が多いため、お互いに気軽に声を掛け合うなど、利用者は地域の中に文字通りとけこみ、安心の中で利用者が生活している事業所である。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、朝礼時に出勤者全員で読み上げることで、意識の向上や共有につとめている。また、その理念を軸にしたケアを行っている。	事業所の理念を、毎日朝礼時に読み上げているほか、日々のかかわりにおいても、食事時間を、本人の生活リズムに合わせて個別に調整するなど、理念にもあるように「もう一つの家・家族」であるような対応の実践がなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	隣接している施設との合同行事、地域交流会の開催、地域との季節行事を行ったり、近隣の保育園との交流、地域の認知症カフェに出向き、交流を図っている。	地域に向けて積極的に出向き、地域行事に参加する活動を継続的に行っているほか、事業所の判断で外出できる「ふらっと外出」を取り入れ、地域へ出かけている。また、祭りへの参加、保育園へ自作の雑巾の提供など、事業所全体として、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や敬老会を利用し、食事を一緒にとるなどの交流をすることで、認知症理解の輪を広げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、開催している。近況報告や事故報告についてなど、施設内で起きていることを随時報告すると共に、終了後に各分野の専門家による講話(介護保険・認知症など)や食事会、茶話会などを開催し、家族・近隣の方の意見を聞くとともに交流を図り、サービス向上に繋げている。	運営推進会議では、事業所の取り組みについて報告を行い、介護保険や認知症についての話題提供を行っているほか、食事会・茶話会を開催し、地域や家族の意見を聞くようにしている。その結果、地域住民がもみの木を切り出し、飾りつけを手伝ってくれるなど、互いに協力しあう関係が構築されている。	運営推進会議に家族が参加することにより、事業所の理解を深めることにつながり、サービス向上にもつながるため、より家族に参加がしやすくなるように、会議の名称の工夫や事業所行事とからめるなど、さらなる工夫がなされるよう期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	白木地域包括支援センターと情報交換を行い、協力関係を築いている。また、自治会長や民生委員にも来ていただき、密な情報交換を行い、協力関係を築いている。	運営推進会議に市からの参加が時々みられるほか、地域包括支援センターと日頃から情報交換や意見交換を行っている。また、認知症カフェの事業など、行政が進める事業にも協力しているなど、日頃から行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関は施錠を行っていない。しかし、腰の圧迫骨折をされているご利用者1名に対しては、転倒の危険性が高いため、本人・、家族も含めた関係者で話し合い、同意書をかかわした上で4本柵を使用している。完治され安全性が確保された上で外していく予定。今後も、身体拘束ゼロを目指して、処遇会議などの場を利用して、職員の意識統一をはかっている。	身体拘束を予防するための勉強会を定期的に行っているほか、言葉による拘束を防止するよう、日頃から職員同士で声掛けをしあっている。日中の玄関への施錠はなされていないほか、やむを得ず拘束を行う場合には同意書や経過記録を作成し、身体拘束が行われないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	処遇会議を通じ、虐待防止の意識を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内外で権利擁護研修など多くの研修を受け、それを基に部署内で話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は、相談員と計画担当者が重要事項説明書による説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を利用し、家族の意見を聞く場を設けている。そこで疑問をもったことやおかしいと感じたことには、随時指摘を頂き、改善を図っている。	家族と意見交換を重ね、カンファレンスなどで介護計画への反映があるほか、運営推進会議や事業所の行事等の場を通じても意見を聴取し、事業所の運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回、スタッフ会議にて職員間で意見の交換を行っている。	職員からの介護に関する提案や、意見や要望などに対し、月1回のスタッフ会議において、意見交換の場を設けている。会議は、職員が参加しやすいよう、朝の時間に行っており、利用者のケアの方法、アセスメントのやり方についても改善提案がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期ごとに個人目標を設定し、上司とその目標についての評価を行っている。その場も、意見交換の場として機能している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○J T委員会を施設単位で設置している。新任職員に先輩職員がついて業務指導などを行っている。また、外部研修に参加し、報告会にて振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修などを利用して、他事業所との交流をはかっている。法人内での会議などにも参加し、意見交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前に事前面接を行い、在宅での生活や施設であれば、施設での生活について把握している。また、困り事や不安なことがあるか、傾聴するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前に事前面接を行うことにより、在宅での苦労やこれから利用に向けての不安などを傾聴し、その気持ちを共有するようにしている。また、運営推進会議や外出行事にも参加をお願いして、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族の意見・要望を聞きながら、各専門職が連携して支援を行っている。 特に、初期は新しい環境に馴染めないでいる方が多いため、様子観察や声掛けに力を入れ、安心できるように配慮したケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人のペースを尊重することを第一に、自由に過ごせるように配慮している。また、共同生活を行うことで、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と一緒に花見に行ったり、もちつきなどの行事に参加して頂いたり、なるべく家族との交流の機会を作っている。また、病院受診なども家族に付き添っていただくよう呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者のほとんどが白木町の方であるため、地域の方と一緒に敬老会を行ったり、地域の祭りなどにも参加させて頂いている。また、ふらっと外出を増やすことにより、地域に出る機会を増やし、関係継続に努めている。	利用者は近隣の方が多いため、「ふらっと外出」などを通じ、近所のスーパーに外出することで、なじみの人と出会うことができる。地域との付き合いも多いほか、面会に来所する家族が慣れて、他の利用者とも触れ合うことでなじみの関係になるなど、新たななじみの関係も構築されている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事全般、役割をもって助け合いながら生活を送って頂いている。利用者同士で声をかけあいながら過ごされている。また、レクリエーションも頻繁に行い、楽しく過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームでの対応が難しくなり、契約を終了した方でもご要望があれば相談に応じ、退所先の手配などを行っている。また、併設施設に転所するケースも多く、持続した支援を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、ご利用者の気づきや変化について共有することに努め、月に一度の処遇会議にて全体で協議し、個別ケアについて話し合いを行い、ケアについての変更や改善を行っている。	利用者本人との会話の中で、新聞や広告を見てのつぶやきなどを参考に、本人の意向をくみ取り、食事の一品や外出先を決める際の参考にしているほか、ゆっくりしたい意向の利用者には日程を無理強いせず、ゆったりと過ごしてもらうなど、本人本位に対応がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面接にて生活歴を把握するように努めている。また、ご家族に居室の馴染みのものがあれば、持ってきて頂くようお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら、体調管理を行っている。一人ひとりと関わりながら、気づきがあればその都度職員間で話すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のニーズや問題点を処遇会議にて話し、家族や関係者と（主治医・看護師）との意見を取り入れ、介護計、書類作成、などを日々の記録でチェックしている。	本人の意向や家族の意見を取り入れながら、主治医や看護師などチームで介護計画が作成されている。日頃の介護においては、ケアプラン実施状況を介護記録表においてチェックがなされ、現状に即した介護計画となるよう工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	各々に個人記録を作成している。業務日誌や連絡帳も活用しながら情報共有を行い、日々のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設事業所を活用することで、ご利用者・ご家族の要望やニーズに応えられるように、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の生活歴や特技・趣味を把握し、公民館のクラブ活動にも参加している。他にも、農業に携わっていた方も多く、グループホームの畑を作りなども手伝ってもらったり、地域の方の畑作りにも参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の希望にできるだけ沿えるように支援している。病状に合わせ、医療機関と連携をとっている。	事業所では内科、精神科、歯科、耳鼻科の専門医が、協力医として訪問診療も行っているほか、職員や家族の付き添いによって受診を行うなど、利用者や家族が納得する、適切な医療が受けられるような支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設事業所の看護師と情報を共有しながら、体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には、ご家族に状態確認の電話を差し上げたり、医療機関と連携をとるように努めている。退院後は、入所調整を速やかに行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは行っていない。重度化した場合には、併設事業所に転所して頂くか、他医療機関・施設に紹介を行っている。	利用時において、重度化した場合の説明を行っている。事業所において終末期の対応は行っていないが、家族にもよく理解・納得してもらい、他の医療機関や施設の関係者とも十分な連携を行いながら、紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や外部研修を通じて、急変時や事故発生時の対応について学ぶ場を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回の消防・避難訓練を行っている。そのうちの1回は、地域の方にも参加して頂き、火災時の避難誘導のシミュレーションを実施している。また、土砂災害についての避難マップを用いて、消防署の職員による講話も行っている。	地域の方を招いて避難訓練を行っているほか、消防署から具体的な避難方法の指導や防災に関する話をしてもらい、地域住民にも聞いてもらうことで、共に防災意識を高める体制を整備している。また、母体法人の併設事業所とも連携し、共に備蓄を行うなどの協力体制もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄つのケアなど日常のケアや、業務日誌も敬語での記録を心がけ、プライバシー保護に努めている。	職員の雇用の際に、母体法人による新人研修、事業所内における研修、外部研修に参加し、事業所内への伝達研修などを通じ、常に利用者の人格の尊重やプライバシーの確保に努めている。また、日頃の言葉かけや、業務日誌においても敬語の記録を行うなど、常に意識を保つようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけご本人が自分で決定して頂けるように配慮し、コミュニケーションを図るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の生活ペースを尊重することを心がけ、ご本人の意志を尊重するように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回、訪問理容院を利用して頂いた、時に、希望があればマニキュアを塗ったり、化粧をしている。男性の方もひげそりなどの声かけを行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本的には、厨房で作ったものを利用者の方と一緒に盛り付け、配膳を行っている。月に一度はご利用者と準備から一緒に行い、料理を作っている。時には、近隣の飲食店で食事などもしている。	個別外出を活用して外食を行っているほか、家族とも待ち合わせて外食ができるよう支援している。また、利用者と一緒に漬物を漬けたり、近所の人に借りた畑で作った野菜を食べたり、利用者に配膳を手伝ってもらうなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事を楽しめるような支援がなされている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	医師や施設の管理栄養士と連携をとり、個々に応じ、糖尿食や減塩食など栄養バランスがとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後，、ご本人の様子を見ながら口腔ケアを促し、実施している。また、週に一度，訪問歯科も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便チェック表を作成し、個々の排便周期を把握するようにしている。その周期に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。また、体操や食事内容にも気を配っている。その結果、現在、事業所内にはオムツの利用者はなく、紙パンツや布パンツを利用しており、90歳を超えても布パンツの利用者もいるなど、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	ラジオ体操や歩行運動，水分補給にも配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や日にちは決まっておらず，ご本人に希望があるか聞いて、入浴して頂いている。	概ね週2～3回入れるように声掛けを行っているが，本人が希望すれば毎日入浴できる。季節によっては柚子や菖蒲を入れたり，絵画や音楽をかけて楽しんで入浴できるようにしているほか，時にはスーパー銭湯に出かけるなど，利用者が楽しんで入浴できるよう工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室だけに限らず、玄関前のベンチや畳なども利用して頂いている。ご本人が過ごしやすいスペースで過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が服薬について把握するように努めている。誤薬や服薬の忘れがないよう十分に配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	趣味や特技を把握し、ご本人にあった役割の場を提供している。時々、近隣ドライブなど行い、気分転換して頂けるようにしている。月に一度、生け花も実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	誕生日や季節に応じた大型の外出に、ご家族と一緒に出かけたり、ご自身の必要な物などを近隣スーパーへ頻繁に買い物へ出かけている。	母体法人に運転手が配属されており、必要時は車を出して外出することが出来るほか、JRに乗って利用者と一緒に外出する、スーパー銭湯や外食などに行く、帰宅願望のある利用者には、一緒に家に帰ってみるなど、本人の状態に合わせた外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者が少なく、施設側で立て替えて希望する品の購入、また家族からおこずかいを預かり職員が管理している方もいるが、買い物等の時には、そこから自分で支払いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に協力して頂き、可能な方のみ実施している。正月には、全員がご家族に年賀状を送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感ある花を飾ったり、みなさんの写真を見て楽しんだりしている。温度・湿度には加湿器を設置し、毎朝の掃除の時には換気も行っている。	事業所は木造平屋建てで天井も高く、風通しや採光も良い。壁には利用者が飾られているほか、祭りで買ってきた金魚を飼ったり、加湿器の導入、掃除をきちんとおこなうなど、利用者が気持ちよく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳場所を設置して、一人になれる空間を作っている。まだ、殺風景であるため、居心地の良い雰囲気を変えるために、話合っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に協力して頂き、馴染みのもの（絨毯・椅子など）家族写真など置いたりしている。また、その方にあったベット位置を換えたりしている。	居室には好きなものを持ち込むことができるほか、大きなクローゼットや利用者専用の洗面台が設置されているなど、利用者が安心して気持ちよく過ごせるような配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	基本的には、出来ることは自分でを心がけ、残存機能を維持できるように配慮した支援を行っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 白木の郷

作成日 平成29年1月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に家族参加が少ない	運営推進会議に多数の家族が参加できるようにする	・会議名称をやわらかいものにする ・行事とからめる ・曜日の変更	1年間
2	2	地域との交流が行えているので、次のステップとして地域清掃に参加したり、地域住民にとけこむことが必要	地域住民・地区に利用者、職員がとけこむ	・地域清掃の参加 ・小学生登下校の見守り	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。